

国語 (現代文)

東京大学 (前期・理科) 1/3

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

精神分析とオープンダイアログを対比しながら、後者では前者にまつわる難点を回避するかたちで個人の変容が可能になることを論じた文章。水平性と垂直性の絡み合う「斜め」のあり方を的確に把握することは、けっして易しくはなかったであろう。設問は昨年度同様五問だが、精度の高い解答を書こうとすると苦勞するものも見受けられた。設問の意図をしっかりとつかみ、解答の内容を絞り込む力が求められている。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	松本卓也『斜め論 空間の病理学』(筑摩書房、2025年)の一節。
頻出度合・的中等	入試で出題されるのは稀な著者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・ 増加) 約3700字。昨年より約900字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第一問	人間論	(一)	記述	標準	傍線部内容説明問題。傍線部までの文脈に即して、「水平的関係」と「垂直的關係」の指す内容を、後者が「人工的に作られる点も含めてまとめる。
		(二)	記述	標準	傍線部理由説明問題。直前の段落の内容を踏まえ、患者の自我に変化がもたらされる経緯を、本文から読み取れる範囲で説明する。
		(三)	記述	標準	傍線部内容説明問題。傍線部直前、および傍線部エの後の事例を踏まえつつ、「オープンダイアログ」における語りの特性を記述する。
		(四)	記述	やや難	傍線部内容説明問題。「水平のダイアログ」と「垂直のダイアログ」がどのように「協同」し、それがいかなる点で「重要」なのか、「本文全体の趣旨を踏まえて」説明する。
		(五)	記述	標準	例年どおり、三問の出題であった。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。答案に書くべき要素を的確に捉え、簡潔明瞭にまとめる練習をしておこう。

国語 (古文)

東京大学 (前期・理科) 2/3

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

オーソドックスな出題であった。

<本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『狭衣物語』
頻出度合 ・的中等	頻出出典。 2025年度完成シリーズ「国公立大古文」第四講、「古文(共通テスト対応)」第十四講が的中。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 約960字。昨年より約100字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	説話	(一)			
		ア	記述	やや易	現代語訳。
		イ	記述	やや易	現代語訳。
		エ	記述	標準	現代語訳。
		(二)	記述	標準	心情説明。
第二問 (理科)	説話	(三)	記述	やや易	内容説明。
		(四)	記述	やや難	和歌の説明(「光をも見る」の内容を具体的に説明する)。
		(五)	記述	やや難	理由説明(直前の和歌の内容をふまえて説明する)。
		(一)			
		ア	記述	やや易	現代語訳。
	イ	記述	やや易	現代語訳。	
	ウ	記述	標準	現代語訳。	
	(二)	記述	やや易	内容説明。	
	(三)	記述	やや難	理由説明(直前の和歌の内容をふまえて説明する)。	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。解答を簡潔にまとめる練習も必要。また、和歌の学習もしておくこと。

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年どおり文理共通問題であり、今年度は漢詩が出題された。設問数については昨年度同様に枝間を含めて文科6題、理科5題であった。また設問に関わる部分での送り仮名の省略は昨年度は4箇所あり、今年度も3箇所あった。現代語訳の設問は昨年度に続き大問中にもあった。例年どおり、答案を作成する際に内容を適切にまとめることが求められている。

<本文分析>

大問番号	第三問
出典 (作者)	『白氏文集』「双石」
頻出度合 ・的中等	『白氏文集』はしばしば出題されるが、当該の作品は稀。
分量 前年比較	分量 減少 ・やや減少・変化なし・やや増加・増加 160字。昨年は222字(昨年より62字減)。
難易 前年比較	難易 易化 ・やや易化・変化なし・やや難化・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	漢詩	(一)			
		b	記述	やや易	現代語訳。「遺」の意味に注意する。
		d	記述	やや易	現代語訳。「偶」の意味、「其」の指示内容に注意する。
		e	記述	易	現代語訳。「容」の意味に注意する。
第三問 (理科)	漢詩	(二)	記述	標準	内容説明。「俗用」の意味に注意し、「嫌不取」などを適切な表現になるよう工夫する。
		(三)	記述	標準	内容説明。直前の句との繋がりをとらえ「人間」の意味に注意してまとめる。
		(四)	記述	標準	現代語訳。疑問形「～否」に注意し、「老夫」が作者であることを押さえて訳出する。
		(一)			
		b	記述	やや易	現代語訳。「遺」の意味に注意する。
		c	記述	やや易	現代語訳。「偶」の意味、「其」の指示内容に注意する。
		d	記述	易	現代語訳。「容」の意味に注意する。
(二)	記述	標準	内容説明。「俗用」の意味に注意し、「嫌不取」などを適切な表現になるよう工夫する。		
(三)	記述	標準	現代語訳。疑問形「～否」に注意し、「老夫」が作者であることを押さえて訳出する。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
今後も漢詩が出題される可能性があるため、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。